



第百四十九號特設輸送艦戦時日記

自昭和十九年二月二十日
至昭和十九年三月二十九日

四月八日提出

1/7

第百四十九號特設輸送艦戦時日記

第百四十九號特設輸送艦



一	作戰經過概要	目次
二	人員、現狀	
三	命令、報告	
四	參考	
(一)	調査事項	
(二)	戰訓	
(三)	寫真	
五	戰件、兵器、航空機、肉等	
	(目次終)	

二四		二三	二二	二一	二〇	日所在	作戰經過概要
吳	吳	吳	吳	吳	吳	午前六時	
			薄曇	晴		正午	氣象
			西八	北西		午後三時	風天
			北西	西六			向風
			北西	西六			候
			北西	西六			暑温速
船		合	聯	務	務	一般	昭和十九年二月
ハ						特別	
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	經過概要	記事
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	尾道發	
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	空襲尾道	艦隊編入
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	故障尾道	
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	尾道出港	
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	戦斗教練	
			〇八〇〇	〇八〇〇	一三三〇	吳入港	

二人負現狀
職官氏名

元	六	七	六	五
吳	吳	大迫	大迫	吳
	晴 西度 三度	晴 北度 三度	晴 西度 三度	晴 西度 三度
	伏 西度 七度	晴 西度 三度	晴 西度 九度	晴 西度 七度
	伏 西度 六度	晴 西度 六度	晴 西度 六度	晴 西度 六度
属		附		隊
	一七三〇 吳入港	一四〇〇 大迫假泊	一九〇〇 大迫假泊	一七〇〇 大迫假泊
	〇九〇〇 前日三回	〇九〇〇 戰車揚陸揚収洋 上進水予備実験	〇九〇〇 大迫海岸三接 岸實驗	一四〇〇 能力試驗

三令達報告書

職	主	務	官	氏	名	記事
艦長			大尉	前川	信一	三月首任
飛組	航海長兼通信長砲術長職務執行		中尉	石澤	俊雄	三月首任
同	機関長兼内務長職務執行		同	細砂	精	
同	機関長兼掌機長		少尉	山崎	巖	三月六日退任
同	同		機曹長	向井	康三	三月首任
同	掌砲長兼分隊長		兵曹長	來山	一太	
同	掌内務長兼甲板士官		同	立道	康一	
同	電機長兼分隊長		機曹長	山口	實	
(二)下士官兵員數						
科別	兵科	機関科	匠務科	主計科	計	
員數	一	二七	一	五	八四	

四 參考事項

(特記事項無し)

(一) 諸調査事項

吳廠船設秘一九三九號五九號特設輸送艦能力試驗(第一)成績概報通

(二) 戰訓

(特記事項ナシ)

(三) 寫真

五 船作兵器機肉醫務衛生會計經理

(一) 船作

(二) 兵器

(特記事項ナシ)

(三) 機肉

(四) 臨戰準備

臨戦準備實施前、状況

竣工昭和九年二月十日
役務聯合艦隊附席
定員 二十六名
機因概況 完備
(但シ消防ヒレポンプノ一台及通
風機用電動機未搭載)

主要作業名	着手年月日	終了年月日	実施場所
不用物件陸揚	一九二二	全上	吳
露田及燃料 搭載	一九二二	全上	吳

(四) 主要機関、救正備及使用する(機因、整備記事ナシ)

(一) 主機械使用時數

主機械使用時數	軍動四サイクル無氣噴油式 二月中	ガゼル機械 三基 計
運転時數(時分)	二五、五〇	二五、五〇
總行程(哩)	二七九〇	二七九〇

(二) 發電機使用時數

期		間		二 月 中		累 計	
制式名		數		二五〇キログラム 二基		〇	
計畫力量		二五〇キログラム		〇		〇	
運轉時數		一 號		六九一五〇		六九一五〇	
(時一分)		二 號		七六一四〇		七六一四〇	
(一) 機用待機		(特記事項ナシ)					
(四) 醫務衛生		(特記事項ナシ)					
(五) 會計整理状況							
(一) 被服受込		吳需ヨリ約十租受込					
(四) 需品(消耗品)		吳需ヨリ二ヶ月分受込					
(一) 糧食搭載状況							
搭載品		日 時		受込先		數 量	
貯糧品		二一三二		吳 需		約十砵半	
						生糧品八月前ヨリ毎月異常ナシ	

終

1056

機密

一四九特輸機密第八號ニ

自昭和十九年三月一日
至昭和十九年三月三十一日

第四百十九號特設輸送艦戰時日誌

第四百十九號特輸艦

四月三十日

10.4.24

10.4.24

一	作戰經過概要	目次
二	人員負傷現狀	
三	令達報告等	
四	參考	
(一)	諸調查事項	
(二)	戰訓	
(三)	寫真	
五	戰件兵器機関等	

(目次終)

五	四	三	二	一	日所在
吳	情島沖	情島沖	大迫	吳	氣象
北東 八四 五八	北東 六二 四二	北東 三二 四二	北東 六三 六一	北東 一三 一四	天候 風向 風速 温度
晴 四九 六五	晴 一〇 九〇	晴 一〇 七〇	晴 一四 七五	晴 一〇 一〇	視界
曇 一三 四四	曇 九四 五九	曇 一〇 五〇	曇 一〇 六〇	曇 一〇 六〇	
船 會 聯					任務般
一六〇〇 入港	一五三三 假泊	一四〇〇 戰車揚収試験	一五〇〇 戰車揚収試験	一五〇〇 戰車揚収試験	經過概要
二					記事

人員現狀
(一) 職員官氏名

職	主	務	官	氏	名	記事
組長			大尉	前川	信一	
東組	航海長兼通信長砲術長	中尉	石澤	俊雄		西日集ナ 八六
同	機用長兼内務長職務執行	同	細砂	精		十三日 着任
同	同	同	豊田	喜代治		十三日 着任
同	主計長職務執行	主計尉	内木	正		三十日 着任
同	機械長兼掌機長	機長	向井	康三		
同	掌砲長兼分隊長	兵曹長	栗山	一太		
同	掌内務長兼甲板士	同	立道	康一		
同	電機長兼分隊長	機長	出口	實雄		

(二) 下士官兵員數

1901

科別	兵科	機用科	工作科	医務科	主計科	計
負數	五二	三〇	一	一	五	八九

三令達報告等	
發元	日時
九日一七三〇	聯合艦隊司令部 海軍大臣
受元	日時
九日〇七〇〇	人事局長
令達報告等	
別種	

本艦	九日〇七〇〇	人事局長	第四九號特輸機密第一〇七〇〇番電 「軍医科尉官一名既負才至急御取計を得 度（三月中旬）吳發南才海面進歩予定 委細書類後送」	本艦
本艦	九日〇七〇〇	人事局長	第四九號特輸機密第一〇七〇〇番電 「軍医科尉官一名既負才至急御取計を得 度（三月中旬）吳發南才海面進歩予定 委細書類後送」	本艦
本艦	九日〇七〇〇	人事局長	第四九號特輸機密第一〇七〇〇番電 「軍医科尉官一名既負才至急御取計を得 度（三月中旬）吳發南才海面進歩予定 委細書類後送」	本艦

本艦	九日〇七〇〇	人事局長	第四九號特輸機密第一〇七〇〇番電 「軍医科尉官一名既負才至急御取計を得 度（三月中旬）吳發南才海面進歩予定 委細書類後送」	本艦
本艦	九日〇七〇〇	人事局長	第四九號特輸機密第一〇七〇〇番電 「軍医科尉官一名既負才至急御取計を得 度（三月中旬）吳發南才海面進歩予定 委細書類後送」	本艦
本艦	九日〇七〇〇	人事局長	第四九號特輸機密第一〇七〇〇番電 「軍医科尉官一名既負才至急御取計を得 度（三月中旬）吳發南才海面進歩予定 委細書類後送」	本艦

四参考

(一) 諸調査事項

輸送艦接岸離岸要領 (別紙第一)
 特設輸送艦操艦参考 (別紙第二)

(二) 戦訓

第一四九號特輸棧密第八號、三中部太平洋方面輸送作戦経過概要報告通り

(三) 寫真

(特記事項ナシ)

五戦作 兵器 機関等

(一) 戦作

(特記事項ナシ)

(二) 兵器

(三) 機関

主機械型式及數		單動四サイクル無気噴油式ターセル機械		三基全
期百		三月中		累計
運轉時數 (時)		一八五・〇〇		二〇一・五〇
總航程 (海里)		一五四・三		八二一・三
口發電機使用時數				
制式及數		二五ギロターセル直流		二基全
計画力量		二五ギロワット		
期		三月中		累計
運轉時數		二〇二・〇〇		二七一・五〇
(時分)		一八九・三〇		二六六・一〇

- (一) 臨戦準備 記事ナシ
- (二) 主要機関整備及使用
- (1) 機関整備 記事ナシ
- (2) 機関ノ使用
- イ主機械使用時數

(四) 政務衛生
(五) 會計經理

(特記事項ナシ)

(四) 被服受込
(四) 需品受込

吳需ヨリ來負防暑服、靴受込

品名	日	時	受込先	數量	摘	要
貸與品	三月六日		吳需	壹數	下士受込八名、上士受込八名、食器受込	
消耗品	同		同	三月分	用紙等	

(四) 糧食受込

品名	日	時	受込先	數量	摘	要
貯糧品	三月十五日		吳需	三月分	來負六十八名ニ対スル分	
生糧品	三月二十二日		横需	十日分	來負ニ対スル分	
貯糧品	三月二十二日		同	三月分	便床者三〇名ニ対スル分	
生糧品	同		商人	十日分	同	

(總)

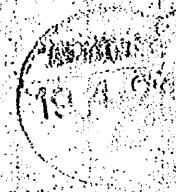
別紙第一

昭和十九年三月八日



輸送艦接岸離岸要領

第一四九號特設輸送艦長
海軍大尉 前川 信一



一 緒言

昭和十九年二月下旬第百四十九號特設輸送艦長トシテ
内海倉橋島大迫海岸ニ於テ能力試驗ヲ實施此間得
ル經驗ニ基キ本書ヲ纂ス

思フニ内海ハ海上極メテ平穩ニシテ海岸ノ情況平易而モ實
戰ニ於ケル敵水上艦艇水中防材字梢部隊ノ防禦砲火
等障害ヲ排シテ上陸作戰ヲ強行スルガ如キ困難ナル
狀況ヲシ彈丸雨飛下ノ接岸離岸ハ大イニ訓練研
究ヲ要フルモノト認ム 尤モ接岸離岸法一例ヲ述ブル
ニ過ギズ

二 接岸要領

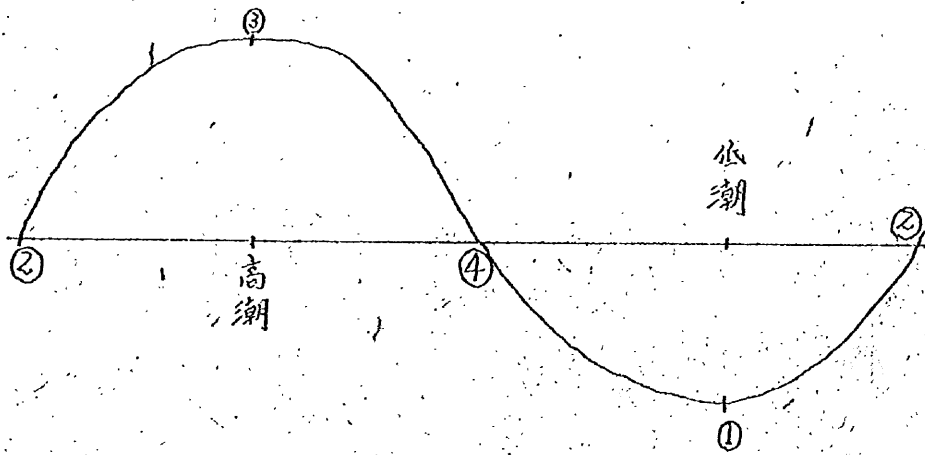
(1) 海岸状況

底質砂ニシテ海岸傾斜五度乃至十度ニ適當トス
大迫海岸ハ傾斜約九度ナリ

接岸位置ハ戦車ハ航空基地用兵器材設備用材料
ノ揚陸(揚収)ニ必要ナル空地ヲ有スルヲ要ス

(4) 潮汐、干満、接岸時期

作戦上ハ要求ニ依リ接岸時期、候補ヲ許サレザル
場合ハ已ムヲ得サルモ潮、干満ハ離岸ノ難易ニ大ニ影響
アリ以下幾ノ潮汐ノ研究ヲ要ス



遷クトモ③迄ニ離岸シ得ル如ク接岸
時期ヲ撰擇ス
②④間ハ約六時間ニシテ接岸ヨリ
離岸迄ハ時間ヲ要ストセバ
①稍容易
②最も容易
③④最も難(次ハ高潮時ヲ待ツヲ要ス)
④①難

(ハ) 艦状態

(一) 傾斜

三度以内レベル支障ナシ傾斜修正ハ真水兼バラストタリ
排水移動ニ依ツテノミ行ヒ得(四屯排水ヨリ一度ノ
傾斜ヲ修正シ得)

(二) トリム

(接岸記録参照)

前後部吃水差セ。耗乃至。耗程度ヲ適當
スルモバラストタンクヲ前部注水後部排水トナシ置ケ
バ離岸容易ナリ

(二) 接岸用意

(一) 明扉 接岸時海岸ニ衝撃セザル程俯角一〇度迄
開ク

(二) 前扉 戦車庫内揚陸(揚収)ヲ先トスル場合ノミ開ク

(ホ) 接岸法

(一) 標準

接岸時存速ニ乃至三節海岸線直角

艀錨索長サ一五〇乃至三〇〇米

(二) 接岸法一例

(イ) 少しトモ接岸六〇〇米前ニテ微速力整正是海岸線ニ
直角ニ定針ス

(ロ) 接岸四〇〇米前ニテ停止(前部見張所上端ト破打
際ト見透シ線)

(ハ) 一五〇米前ニテ艀錨投錨(前扉前端コトミシグ上
端見透シ破打際ト線)

- (4) 存速三節ニテ接岸時ハ激動殆ド感セズ
- (三) 敵前上陸場合、如キ緩徐ナル接岸法ニテハ物ノ用ニ立ツズ急速接岸法一例ヲ述ブ
- (1) 十分ノ全カ(一三、四節)ニテ海岸線ニ直角ニ定針
- (2) 接岸四五。米前ニテ主機械後進一杯トナス
- (3) 三。米前ニテ艀鉋投錨
- (4) 存速四節
- 後者ハ實戰的接岸法ナルモ後進機械増減速發停、不揃艀効果不良トナリ定針困難ニシテ危險ヲ伴フヲ以テ大ニ訓練研究ノ要アリ
- (四) 接岸セバ人力ニテ門扉ヲ海岸ニ卸ス
- 揚貨機ニテ艀鉋索ヲ張り艦ノ定位置シム
- (五) 艀鉋索ハ離岸際揚貨ニ時間ヲ要スルヲ推進器艀

ニ捲着リ、虞レタルハ、風潮、影響小ナル場合ハ艀錨
ハ使用セサルヲ可ト認ム此、場合接岸後艀振レ廻リ、
危険アレバ振止メ錨トシテ水深ノ倍半ノ錨索長

艀錨ヲ投錨セバ可ナリ

(ヘ) 揚陸揚収法省略

(ト) 離岸法

(一) 接岸セバ直ニ艀部「バラスト」排水後部「バラスト」

注水ヲサス

(二) 艀扉ヲ仰角一〇度迄揚げ

(三) 艀錨索ヲ捲ム

(四) 艀錨走錨シ離岸不能ノ際、多進機械ヲ使

用ス此、際後部ト連絡ヲ密ニシ推進器舵ニ

錨索ヲ捲着サルヲ速カニ錨索ノ重量ヲ取ル要ス

1073

(五) 尚離岸セザバ高潮時ヲ待テ離岸スルモノス

日誌

接岸記録

回次	一	二	三	四	五
前夜	2.31	2.31	2.48	2.09	2.12
夜	3.31	3.28	3.20	3.34	3.31
夜	0.95	0.97	0.72	1.25	1.19
1	0	0	18	0	2
2	21	20	15	2.0	2
3	28	27	29.2	29.4	29.6
4	26	22	21.7	22.8	26.1
5	0	0	0	0	0
6	3	3	2	3	2
7	1.72	1.90	2.04	1.52	1.12
8	3.44	3.67	3.45	3.13	3.57
9	1.92	1.99	1.41	2.11	1.95
10	1.75		2.31	1.93	1.66
11	3.52		3.44	3.56	3.93
12	1.87		1.13	1.63	2.07
13	0	0	4.5	0	2
14	2	20	21.5	2.0	2
15	2	27	21.2	21.4	29.6
16	2	22	21.7	22.8	26.1
17	29	0	0	29.3	29.0
18	180	130	150	150	170
19	満潮	満潮	満潮	満潮	満潮
20	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
21	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
22	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
23	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
24	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
25	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
26	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
27	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
28	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
29	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
30	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
31	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
32	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
33	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
34	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
35	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
36	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
37	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
38	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
39	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
40	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
41	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
42	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
43	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
44	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
45	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
46	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
47	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
48	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
49	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸
50	離岸	離岸	離岸	離岸	離岸

1075

	ノ	ノ
253	1.52	2.51
318	3.45	3.16
435	0.93	0.65
	2	15
	32	32.3
	2	27.5
26.1	0	23.5
	0	0
	2.4	3.5
	2.25	1.98
	3.38	3.35
	1.13	1.37
	2.08	2.20
	3.45	3.64
	1.37	1.44
	2	2
	3.2	5
	2	2
	26.1	23.5
	20	32.0
	120	130
	千20	満200
	離岸	三箱 後進 一房

別紙第二

特設輸送艦操艦参考

第百九号特設輸送艦長
海軍大尉 前川 信一

10.4.24

一、緒言

本書ハ四〇〇馬力ガゼル三基ヲ主機械ニ有スル輸送艦ニ就キ
 操艦上他艦ト相違スル點竝ニ特ニ留意スベキ點ヲ述ベントス
 乗艦後日淺ク尚内地サイパン間及サイパン大宮島間ノ輸
 送ニ從事セルニ過ギサルモ、第百三七号特設輸送ハ遭難事故モア
 リ敢ヘテ本書ヲ纂ス

二、操艦參考

の航洋性

艦首、艦底ノ特殊形狀構造ヨリ風浪ウネリニ對シテハ細心
 注意ヲ要ス、即チ外洋ニ於イテ風速一〇米以上トナリ之ニ
 ウネリヲ伴フ場合ハ艦首ニ波浪衝撃チシ船體ノ激動大ニ
 シテ門扉、船體強度ニ不安アリテ危險ナリ

第百ニナセ号特輸ハ風速ニ五米ヲ斜前ニ受ケ微速力ニテ
 航行中波浪ノ爲門扉脱落セリ風速ニ〇米ヲ超ニル時ハ遲疑
 逡巡スルコトナク機ヲ逸セズ之ヲ斜後ニ受ケ速カラ航ノキク
 最小限ニ落シ避航スルヲ要ス戰況仕勢其ノ他ノ狀況ニ
 依リ已ムヲ得ズ風ニ向首スル場合ハバラスタシク注排水
 ニヨリ一米五〇〇以上ノ艇ツリムトセバ稍々緩和シ得（公試
 吃水ハ七〇〇艇ツリムナリ）
 復原力ニ對シテハ不安ヲ感ゼス左右動揺大ナルモバラスタ
 シ注水ニヨリ之ヲ調節シ得風速ニ〇米ニテ左右四〇
 度ノ動揺ヲ經驗セリ出撃前ハ天氣圖ニヨリ天候ヲ確メ
 内南洋間航海ハ小笠原硫黄列島接岸航路ヲ採リ
 單獨航海成可ク避クルヲ要ス

風ノ影響

乾舷高キ爲風ノ影響顯著ニシテ一〇米ノ風ニテ風下側ニ其ノ場
 圓頭不能ナリ後進中ハ風上側ニ艀ヲ振り五米以上ノ風ニテ
 ハ風下側ニ圓頭不能ナリ出入港時ハ特ニ風ニ壓下セラレザ
 ル如ク注意ヲ要ス

(イ) 搭載物件其他ニヨル自差變化

本艦尾道ニテ公試中羅針儀自差最大〇・八度以內ニ修正シ
 アリタルモ能力試験ニテ接岸戰車揚收揚陸等ヲ行ヒタル後
 自差測定セル結果最大八・〇度生ジアルヲ發見セリ

尚以地出撃前特ニ式ハ火艇一〇臺搭載後ノ自差ハ最大九
 〇度ニシテ搭載前氏シ不規則ナル變化ヲ生ゼリ(第百七号
 特輸ハ最大一二度)

カイパンニテ搭載戰車揚陸後ノ自差モ亦不規則ニシテ常ニ自

差測定ヲ要スルト共、搭載物件ノ種類、量ヨリ自差變化ヲ生ズルヲ念頭ニ置クヲ要ス

(二) 錨泊

(一) 船錨

錨孔位置著シク右舷ニ偏倚シアルヲ以テ普通艦船ニ比シ錨泊中船振レ廻リ大(風向對シ片舷四〇度)ニシテ錨鎖長ハ稍々長キヲ可トス「サイ」ハ大宮島等底質「リ」フニテ錨搔キ不良ナル泊地ニテハ風速七米ニテ近錨時風ニ横タワリ走錨ス

(二) 艇錨

錨鎖ニアラズシテ(ミニ鉄鋼索)艇駐力小ナルモ錨重量大ニシテ而モ振レ廻ハリ殆ンドナキヲ以テ揚格作業中ハ艇錨ヲ使用セバ便ナリ又揚錨速度大ナリ(一分ニ五米)

(木)主機械使用標準

本艦型ハ主機械三基ニ對シ速力通信器ニナリ故ニ中央

機ノ發停ニ關シ錯誤ナキ様左ノ通ナシアリ

出港時 一軸運轉トシ兩舷機前進原速ニテ令ナクシテ

三軸運轉トナス

入港時 一港用意ノ令ニテ二軸運轉トナス

通常航海中三軸運轉トス

接岸時 一接岸用意ノ令ニテ二軸運轉トナス

離岸時 三軸運轉トシ離岸完了セバ二軸運轉兩舷前

進原速ニテ三軸運轉トナス

終

密極秘

一九四九年特設輸送密案第八號五

自昭和十九年四月一日
至同 四月三十日

第四十九號特設輸送艦戰時日誌

第四十九號特設輸送艦

19.8.28
發受

一 作戰經過概要
 二 人員現狀
 三 令達報上
 四 參考
 (一) 諸調查事項
 (二) 戰馬
 (三) 兵器機密等
 五 船体

(目次終)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

十三	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
十四	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
十五	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
十六	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
十七	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
十八	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
十九	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン
二十	大宮島	晴	北東三 七度	東七 二七度	東二 二七度	七	十五	サハバン	十六	サハバン	十七	サハバン	十八	サハバン	十九	サハバン	二十	サハバン

昭和九年四月三日
四月三日セト下下下下諸島陸兵輸送
一四九狩捕隊十計販賣三三三

人員現狀

職員氏名

職主務官氏名記事

艦長大尉前川信一

乗組航海長兼通長總務長職務執行中尉石澤俊雄

同機内務長職務執行同中尉豊田喜代治

同主計長職務執行主計尉岡本正

同機長兼掌機長機長向井康三

同當班長兼分隊長兵曹長栗山一太

同掌内務長兼甲板士官同立道康一

同西電機長兼分隊長機長出口實雄

(二) 下官兵員數

科別	兵科	技術科	工隊科	醫務科	主計科	計
員數	五	三	三	一	一	四
	〇					六

三 令達報告

特記事項 無シ

四 參考

(一) 諸調査事項

(二) 戰訓

(三) 戰寫

五 戰隊兵器 棧因等

(一) 戰隊 特記事項 無シ

(二) 兵器

(四) 主要兵器消耗及補給

名	補	消耗量	補給量	記
後補式爆雷改三	二個	〇		三ノミソニ陸兵輸送ニ際シ使用

(三) 棧肉

(1) 臨戦準備

特記事項無し

(2) 主要棧肉、整備及使用する

(1) 棧肉、整備

特記事項無し

(2) 棧肉、使用

主機械使用時数

主機械、制式及数、期月	運転時数(時-分)	總航程(哩)
軍動四ノイノルニ無気噴油セル機械 四月 中	三四五-〇〇	二九六五、〇
四ノイノルニ無気噴油セル機械 四月 計	五九五-五〇	四七八六、三

口 發電機、使用時数

[illegible]



一四九號特設輸機密第...三

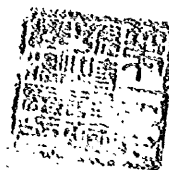
昭和十九年三月十五日

昭和十九年四月十二日

第四百十九號特設輸送艦戰鬥詳報 其ノ一

内南洋方面緊急輸送

六月十三日送付



7601

一	敵軍並友軍状況	目次
二	後	勢
三	経過概要	
四	令達報告等	
五	成果	
六	我が兵力現状	
七	参	考
八	戦訓	
九	行動圖並天候	

(目次終)

敵軍迄ニ及軍ノ情况
敵反攻ハ愈々熾烈トナリ之ガ撃碎準備ハ一日ヲ早メテ情况ナリ
戦車輸送、航空基地材料、設営材料輸送敵前上陸等
敵反攻撃碎準備ノ目的ヲ以テ本艦型特設輸送艦急造セリ

運本機密第^{一七〇〇七}番電ニ據リ第百二十七號特設輸送艦ト
共ニ特ニ式々入艦各一〇台及航空基地員約一〇〇名ヲ
速力ニ南洋方面ニ進出セシメントス

月日時刻	経過概要
三月十七日 一四五八	運輸本部機密第 ^{一七〇〇七} 番電ニ據リ第百二十七號 特設輸送艦ト共ニ ^{二二〇五五} 基地ニ向ケ呉發
一七五〇	大迫假泊

1092

月日	時刻	経過概要
三月十六日	〇七五六 一〇二五	大迫接岸九一式内火艇一。台全物件搭載
三月十七日	一〇五二 一〇五五 一〇四七 一二四六	出港 自差測定 諸訓練 大迫假泊
三月十八日	〇七四〇 〇九三〇 〇九五五	戦車乗員乗艦 N A A 二向ヶ大迫發 熊本山下長官海軍大臣通報吳横各鎮長官 第百一特輸機密第一八〇九三番電 第百四十九號第百二十七號特輸ヲ率ヒ N A A 二 向ヶ發 二十一日一四〇〇着ノ豫定 屋島沖ニテ自差測定 長度灣假泊ヲ（五劍山七〇度二九〇〇米）
	一六〇〇 一七五五	

三月 日 〇八四九	二二二五 陸水 ↓ 師長官兼通 吳通 横通 各司令 機密 第一〇三〇番電 四零四十九路 第一百二十七路 將輸二六〇〇〇〇 吳通ヲ 去リ 横通ニ入ル
三月 日 〇八四九	二四三五 艦内哨戒第一配備 非警戒軍艦陣距離八〇〇米 二四三五 反り島水道通過 一四四〇 艦内哨戒第三配備 一六〇九 高角砲機銃試射ヲ行フ
三月 二十日 〇五五五	出 港 一三三一 文京運動開始の第二海上護衛隊下法 一四〇〇 高角砲機銃試射ヲ行フ 一六〇〇 文京運動ヲ止メ第一警戒隊航行序列トナス

月日時刻	経	過	概	要
三月二十日 一九〇〇	針路概九〇度	風向北東	風速一〇	米波浪ニ依ル
三月二十日 一三一〇	敵動大			
三月二十日 一三一〇	此本↓運輸部長横鎮長官師長官受報	吳鎮長官		
	第百一特輸機密第二二二二番電			
	第百四十九號第百二十七號特輸NAA着			
	横須賀入港			
三月二十日 一六三〇	生糧品、臭水、重油搭載			
三月二十日 一六二五	G行基地員乗艦(運輸部機密第二七〇七番電参照)			
三月二十四日 一〇一二	此本↓師長官横吳五通各司令機密第二四〇九番電			
	第百四十九號第百二十七號特輸三月二十八日〇六〇〇			
	横通う去り五通系ニ入ル			
一三〇四	横須賀出港			

一四〇五	熊本↓師長官運輸部長IAF長官通報五根司令官 中部大平洋方面艦隊長官横須賀鎮長官五西警司令 第百四十九師第百七師特輸G三向ヶNAA發
一五五一	三月三十一日午前着ノ豫定 館山假泊（館山灯標三三五度一三〇〇米）
二一〇〇	熊本↓師長官運輸部長IAF長官通報 五根司令官中部大平洋方面艦隊司令長官
三月二十五日	横須賀長官五西警司令機密第百八〇番電 水艦機密第百八三番電ニ依ル行動豫定ヲ一日繰下グ
二〇二五	館空水偵一機短艇甲板ニ激突九米カッター破
二三二五	熊本↓横須賀長官師長官吳鎮長官通報 館山航空隊司令官大敵長機密第百五三番電 二十五日館山鷹警戒碇泊中（碇泊灯前掃頭赤灯米灯）

月 日	時刻	経 過 概 要
三月二十六日 一〇二五		二〇二五水偵一機右舷ニ激突大破直チニ館空ニ協力 搭乗員ヲ搜索セルモ不明本艦人員異状ナシ 九米カツタ一火破其他船体損傷輕微船体應急 修理ノ爲メ行動豫定ヲ一日延期ス
三月二十七日 〇四〇三 〇四三〇	一〇二四	本↓第百二十七號特輸 出撃後州崎西方海面ニ至ラバ令ナクシテ第二警戒航行 序列ニ出位セヨ 此本↓師長官横東五通各司令機密第二六〇八〇番電 第百四十九號第百二十七號特輸ノ通信系出入日時ヲ左ノ 通り改ム三月三十一日〇六〇〇横通系ヲ去リ第五通系ニ入ル 館山出撃單横陣距離八〇〇米 艦内哨戒第三配備

〇五三〇 一三五〇	文京運動燈台（第三海上護衛隊一法） 本↓第百二十七號特輸 本日（明朝）ノ後航路左ノ通り 一八〇〇（〇三〇〇）針路一三五度 一九〇〇（〇四三〇）針路一九五度 二〇〇〇（〇六〇〇）針路一六五度 低氣圧ノ爲視界不良第百二十七號特輸ヲ見失フ	一九〇〇	本↓下長官運輸部長横領長官第百二十七號特輸 機密第百二十八〇番電二十七日夕刻ヨリ低氣圧ニ入り 第百二十七號特輸ヲ見失フ氣圧七四ニ概風速三〇米 最大動搖四〇度二十八日〇八〇〇ノ位置ハ大島ノ九五度 六〇度針路三四〇度天候回復セザレバ館山灣ニ引返ス 限第百二十七號特輸↓本	一〇二五
三月二十八日〇八〇〇				

月日	時刻	終過概要
三月二十九日	〇六〇〇	第百三十七號特輸機密第百三十七番電本艦〇六〇〇推定位置北緯三一一度四十分東經一四一度二十分微速針路二二〇度避航中ナルモ激動大ナリ貴艦錯場針路速力知ラサレタシ 本↓G長官運輸部長横鎮長官第百三十七號特輸機密第百三十七番電風力ウネリ大ナル為艦操縦意ノ如クナラズ第百三十七號特輸ト會合不能二十九日〇六〇〇推定位置東經一四一度三分北緯三一一度三十分針路概ネ一回〇度速力八節天候回復ヲ待チ父島經由G三向ヲ豫定 第百三十七號特輸↓運輸部長横鎮長官受報 G長官第百四十九號特輸

三月二十九日 二三四〇

柴百二十七號特輸機密第ニ九番電前扉ノ水密、
不完金ニシテ戰車庫ノ浸水漸次増大戰車ノ動搖モアリ
此儘ノ状態ニテハ艦体危險ナリ御指示ヲレシメ

一五二五

第百二十七號特輸 ↓ 本艦

第百二十七號特輸機密第ニ九番電本艦門扉脱落
朝風曳船ニ依リ横須賀ニ向テ豫定ナリ御承知相成度

一六二五

本艦 ↓ 横鎮長官海上護衛隊總司令横鎮海面防備BP
父島方面特根通報第百二十七號特輸

機密第ニ九番電西風浪大ニシテ針路概ネ

一五〇度速力八節ニシテ避航中一六〇ノ位置北緯

三二度三八分東經一四二度四六分第百二十七號特輸ノ

例モアリ護衛隊至急御遠ニ関シ御配慮ヲ得度

運輸水部長 ↓ 本艦通報長官父島方面特根P

月 日	時刻	経 過 概 要
三月三十日	〇五五九	横鎮長官 第百三十七號特輸 運本機密第ニ九八五四番電第百三十七號特輸ニ十八日 一三〇〇青島ノ一ニ度一〇五哩ニ於テ門扉吊下航行 不能ノ爲メ漂流毎時三節ニ北東方ニ流浮中ナリ 貴艦ハ極力第一ニ七號艦ニ合同之カ救難航程ニ當ラシ度
〇七〇二		此本山下長官東通横通五通各司令 機密第ニ〇五五九番電本艦後報スル迄横須賀通信系 ノ儘 此本山下運輸本部長山下長官横鎮長官父島方面特根 第百三十七號艦通報朝風 機密第ニ〇七〇二番電天候稍ニ回復セルモ第百三十七號特輸 救援ヲ斷念シ父島ニ向フ三十日午二前着ノ豫定〇六〇〇ノ

三月三十一日 〇五三二	位置北緯三〇度三〇分東經一四三度五四分	以本山下島方面特根P父島航空隊司令通報横鎮長官 機密第百三十七號電〇六〇〇推定位置父島ノ一二〇度
〇六三六	御配慮ヲ得度	三五度針路二七〇度速力六節對艦直衛機ニ関シ
〇四二八	父島ニ見港着	右三〇度二五〇〇米ニ嫁島ヲ認ハ
一一一〇	此本G下長官運輸本部長横鎮長官呉鎮長官	通報第百三十七號電父島特根P
機密第三一二二〇番電父島着	發父島特根司令宛小笠原部隊信令第二十三號	一特令アル道四一九ヨリ〇六三〇道第一警戒配備ニテ
四月一日 〇五五〇	警戒セヨ	

月	日	時刻	経過概要
四月	二日	一七・一五	二初夜巡検ヲ一九三〇ニ操上施行ス 此第百二十七號特輸↓本艦運輸本部長通報 艦政本部長五三駆巡隊横兵隊長師長官 第百二十七號特輸機長第〇三三四番電二〇一八〇〇 横須賀着
四月	四日	一〇・三二	此本↓五月内通報運輸本部長師長官 中部太平洋方面艦隊長官 機密〇四〇五三番電五〇午前東松四號船團ト會合 豫定五日〇六〇〇豫定位置知ラサレ度 此本↓横通五通東通各司令師長官通報父島通司令 機密〇四一二三番電六日〇〇〇〇横須賀通信系ヲ去リ 第五通信系(一〇三)ニ入ル

四月四日	一三五〇 一七一二	P.S.ニ向ケ父島發 父特根機密第〇四四五〇番電宛東松西綿船團部隊指揮官 五根P 父特根機密第〇四四五〇番電宛東松西綿船團部隊指揮官 第一四九號特輸本四日一四〇〇P.S.ニ向ケNMA發 明五日〇六〇頃船團ニ會合護衛ニ協力スル如ク行動ノ 豫定
四月五日	〇二四〇	小笠原部隊指揮官ニ横鎮長官第ニ海上護衛隊司令 通報本艦五月雨五ニ航空基地 小笠原部隊機密第〇四一八四五番電宛東松西綿船團 一六〇〇位置父島ノ二八五度二五度針路一七〇度速力八節 艦本ニ父特根P父島VB通報五月雨 機密第〇五〇六二三番電隊定地英ニ船團ヲ見ズ會合閉シ

月	日	時刻	経過概要
		〇九四五	飛行機、御協力ヲ得度。〇七〇ノ位置父島ノ二三三度、 一二五度、針路一七〇度、速力一〇節。
		〇九四五	小笠原B、本艦五ニ空通報横鎮サナ
			海上護衛隊メサナP 2400
			小笠原B機密第〇五〇七四〇番電、東松四號〇六五ノ位置、 二三三度六八度、針路一五五度、速力七節。
		一〇一八	本山下将根ト通報、五月雨
			機密第〇五〇一八番電、一七〇ノ北硫黄島ノ一三五度四度、 二三三度、船團ト會合スル如ク行動ス。船團ノ位置御通報ヲ得度、 東松四號船團ヲ左八四度四〇〇〇米ニ認見
		一三四六	船團ト會合
		一三五〇	本山下五月雨

四月七日	二〇〇五	五月雨↓本艦杵崎 ①後尾ニ續行又本艦「P.S」經由(燃料補給)「G」ニ向フ 最大速力一三五節豫定航路ニ參考事項×シラセ
四月八日	二〇二四三 〇三三〇 一六三〇	五月雨↓全艦 ①「落伍艦」キ場合輸送艦ハ右翼分團ノ後方杵崎ハ 左翼分團ノ後方警戒 「P.S」行ハ明八時一六〇分ニ依リ解列ノ豫定 左ノ度五〇〇米ニ發砲(敵狀不明)第一配備ニ警戒 艦内哨戒第三配備 「P.S」行船團(五隻)解列
四月九日	一六三四 一六三六	二番船美作丸雷撃ヲ受ク 道中ニ現場ニ急航人員ノ救助ヲ入救助人員七名 (兵四名船員三名)

月	日	時刻	経過概要
		二四〇	船團ニ總行第三配備
		二〇〇七	航度ニ三 鶴發砲(敵情不明)第一配備ニ警戒
		二〇二〇	第三配備
		二一四〇	本山下GF 中運輸本部長TYB 指揮官
			通報4BG 5BG P 4F P
			機密第〇九二四〇番電TYB 機密第〇七五〇五番電
			閣下搭載中戦車ハPSニテ揚陸シ差支ヘナキヤ
		二三四六	PS 着
		二三五〇	本山下GF 長官運輸本部長TYB 指揮官
			通報横吳鎮P父島ABGP 5BG P
			機密第〇九二三五〇番電PS 着
		二三五五	本山下五根P 二三三〇PS 着

四月十四	一四四〇	G 行基地員一名東京丸ニ移乗
四月十四	一九一五	熊本小隊長官領長官 T Y B 指揮官 運輸部長 44P 機密第三〇九一五番電 T Y B 電令作第一八號ニ 依ル作戰ニ應ズル爲搭載中ノ特ニ武戦車〇台ヲ PS 揚陸中 行基地員ヲ東京丸ニ移乗セリ
四月十四	一三〇〇	戦車一〇台揚陸
四月十二	〇六一〇	順軍務局長本營海軍參謀部第部長山第四第五 通信隊四根五根各司全部 通報本艦 G F 月 24P 号鎮長官 44 司令全部 T Y F 司令全部 機密第一二二一〇一番電本年四令第四七八號ヲ以テ 第四根據地隊司令部附ニ臨時増置セシタル特型 戦車要員八員十四附第五根據地隊司令部附ニ 變更スル第一四九號特設輸送艦搭載ノ特ニ式

月 日	時 刻	経 過	概 要
		魚 類 乗 員 ハ P S ニ 乗 リ 上 ル	揚 陸 セ シ メ タ リ シ ル

司令達報告書

月日	月日	月日	種別
三月十七日 〇〇〇七	三月十九日 〇九〇〇	三月二十一日 一六四〇	
運輸部長	受報 GHP 4P 4ABP 横領P	受報 GHP 運輸部長 海上護衛隊司令部 GHP 横領P GHP 特務艦長	
令達報告	令達報告	令達報告	
宛先第一三七第四九輸送艦(無通氣付) 通報兵長官 第一三七及第一四九特設輸送艦(依ル内南洋方面 緊急輸送ハ左ニ依リ實施シコトニ定メラル 一輸送物件 山特ニ式戰車隊甲各艦一隊(又基地ニ搭載 PT 迄 四 一三一空一三二空基地員各艦約一五〇名 (NAA 三下搭載 PS 迄) 二行動要領 三月中旬 NAB 方面發 NAA PS 經由 PT 着	宛先百四十九特設輸送艦長 NAA 迎艦 船体振動甚シク本洲南岸航行(風速二〇米波高 ニ米一八波高ニシテ今般輸送ハ是非共護衛艦 向第百二十七號輸送艦ハ重油外ニ外敷ナリ 海水漏處ヲ生セリ		

月日	月日	令	種別
三月二十二日二〇五五 運輸部長	三月二十二日二〇四二〇 受報 GTF P IAF P	令 達 報 止 宛二七號四九號特設輸送艦(横通前付) 通報横鎮 運本機密第一七〇七番電開聯 行動要領「NAA P S 終「アル「NAA G 經由「改「アル	別
三月二十三日二二二九 運輸部長	三月二十四日一五〇〇 受報 GTF P IAF P IAF 各司令部 兵機各運輸部長	貴機密第一二〇三番電及同第一二〇三五番電 等開所本艦性能整備状況並に戦車隊 急送「要「アル「實情「鎮「本省協力「左「依「リ 「員「施「致「度 一第一二七號及第一四九號艦「運本機密 第一七〇七番電及第一二〇三五番電「依「ル 輸送(三月二十四日NAA「致「隊「定「右「引「續「 四月下旬NAA B 及NAA A「ヨ「リ「特「式「戦「車「隊 二隊(「合「字)及「航「空「艦「隊「基「地「員「ラ「P「S 方面「輸「送「ス 兵第一五〇號第一二二號第一〇二號及第一三八號 四月初頭NAA B 及NAA A「ヨ「リ「特「式「戦「車「二「台 「P「T「二「一「P「基「地「員「ラ「P「S「方「面「輸「送「ス	別

三月三十一日一〇一五 第一二七特輸	三月三十一日一〇一五 西九特輸 横領長官 運輸部長 受報 G.F. 横領長	本艦〇七五〇北緯三一度三八分東經西二度三九分 ニ於テ風浪(風速ニ五米)ノ為ニ麻ナツト 綿付板破損曲クサリ切斷海中ニ没ス漂流シ 〇九〇〇天候風向西南西風速三〇米波高九 氣圧七四二天候回復毎ニ應ニ急修理スルノ外策ナ シ	ALL
三月三十一日一〇一五 第一二七特輸	三月三十一日一〇一五 第一二七特輸 受報 運輸本部長	發第西九號特設輸送艦長 行動豫定知ラレ度ニ	ALL
三月三十一日一〇一五 第一二七特輸	三月三十一日一〇一五 第一二七特輸 受報 運輸本部長 横領長官 軍令部總長 二〇一特輸 品々長	特設輸送艦ハ艦首特殊形状ニ因リ外洋ノ平穩 ナル海面ニモ僅少ハウネリ風浪シテ横前ニ受テ 航行スルトヤハ最微速ニテモ船体激動大開扉 衝撃ノ為ニ危険ニテ對潜警戒上甚ハ堪ヘス 右性能ニ鑑ミ其護衛艦ハ必須ト思考スル尙偏東風 連日ノ航行ハ至難ト思考セリ、三時行動ニ開シ 衝撃ノ強度今般航ニ依リ艦首機部一部 損傷、強度ニ不安ナルモ航行ニ支障ナキ 見込	ALL

月日	發	月日	着	受報	令	達	報	告	種別
四月一日 〇九五五 一三七 特輸	四月一日 一七一五 一三一 空(當番地) 通報 四九 特輸	四月一日 一五三三(了) 運輸本部長 受報 軍令部次長 Gサキ IAFサキ	四月二日 一五三三(了) 運輸本部長 受報 軍令部次長 Gサキ IAFサキ	四月二日 一五三三(了) 運輸本部長 受報 軍令部次長 Gサキ IAFサキ	發後浦中村 一、機指揮官外九七名便乗、輸送艦一二七〇空系 東方ニ於テ暴風、爲航行不能、漂流 目下NAAニ向テ微速力航行中ニシテ四月二日 入港、四月三日香取基地歸着ノ豫定 二、大賀兵曹長外四七名ハ第一四九特輸、送艦ニテ 三十一日父島着、Gニ向テ豫定				
四月二日 一四二〇		四月二日 一五三三(了) 運輸本部長 受報 軍令部次長 Gサキ IAFサキ	四月二日 一五三三(了) 運輸本部長 受報 軍令部次長 Gサキ IAFサキ	四月二日 一五三三(了) 運輸本部長 受報 軍令部次長 Gサキ IAFサキ	發後九特設輸送艦長 航洋性、最近ノ天候ニ鑑ミ本艦進出時期遅延 慮アルヲ以テ急遽進出ヲ要スル基地員輸送ニ 關シ別途ヲ講ゼラル、得策ト思考ス				
四月四日 一六五〇 小笠原部隊 指揮官	四月四日 一八四七 一四九 特輸 受報 五月雨	四月四日 一八四七 一四九 特輸 受報 五月雨	四月四日 一八四七 一四九 特輸 受報 五月雨	四月四日 一八四七 一四九 特輸 受報 五月雨	一三七七父島海軍航空隊水上偵察機父島ノ 二八八度一三二度ニ於テ油紋ヲ發見、爆撃ス				
四月五日 一三四五 小笠原部隊 指揮官	四月五日 一四三九 一四九 特輸 受報 横濱サキ	四月五日 一四三九 一四九 特輸 受報 横濱サキ	四月五日 一四三九 一四九 特輸 受報 横濱サキ	四月五日 一四三九 一四九 特輸 受報 横濱サキ	東松四郎船團二〇〇ノ位置 父島ノ一二二度一〇〇度、針路二〇〇度 速力八節				

五 成 果

1) 輸送物件人員

特二式火艇

戦車隊員

基地員

2) 人員救助 (美作丸被雷時)

七 名 (兵四名 船員三名)

3) 我が兵力の現状

全力發揮差支ナシ

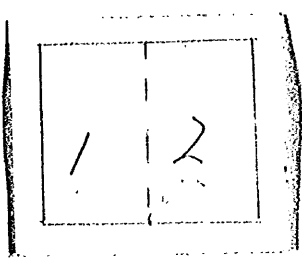
九米 カツタ 大破 (サイパン揚陸)

六 考 察

1) 戦訓 本艦機密の。九西番電通り

2) 行動圖無。天候 別紙第一通り

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 3 年 7 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)	

東南洋方面戰車基地貨輸送行動圖 (海圖第2101号全尺)

